(5)	用地調杏筌業務	(卧枢昌田)

業務名: (1/3)

	THE STATE OF THE S	平価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
			業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」	12	□ ・当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた ・当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・ 析設計等の手法・技術に関する提案がなされた。	
					チェック数 0			
			業務遂行段階における提案	40	評価細目 f_{xy} 2数= $0 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$	24	□ ・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 ・関連する多面的な視点から検討された。あるいは高度な技術レルに基づく提案がなされた。	ベ
		提案力			チェック数 0			
		改善力 【加点評価】	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、 $n=2$ ⇒「1.0」	12	□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された	•0
					チェック数 0			
			業務内容等 改善の提案	20	評価細目 f_{xy} /数=0⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$	12	□ ・業務の作業効率を向上させる提案が自主的になされた。 ・業務の内容・精度を向上させる提案が自主的になされた。(用 市杭等の問題点の指摘の有無等)	地
					チェック数 0			
			小 計	100	(1)	60		
e			\1, bi	100	•	00	Michael ender y protect (Shedd) () and b	
プロセス評価	専門技術力	門 技 術	目的と内容の 理解	20	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rceil$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rceil$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rceil$	4	□ ・業務計画書に必要事項が記載されていた。注1) □ ・当該業務の目的、内容が理解されていた。 ・作業計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。	
					チェック数 0		・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が 解されていた。	理
			必要情報の 把握	20	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$	4	・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 ・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされいた。	、て
					チェック数 0		□ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された	.0
			検討項目、 検討手法	20	評価細目 f_{xy} /数=0⇒ $\lceil 0, 2 \rceil$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0, 4 \rceil$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0, 6 \rceil$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0, 8 \rceil$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1, 0 \rceil$ チェック数 0	4	□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ ・採用された検討項目の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □ ・業務目的に照らし、必要な調査又は作業項目が不足なく設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □ ・採用された検討手法は、他の業務実施事例、補償事例等を収集	
					チェック数 ()		□ し、参考にするなど、難易度の高いものであった。 注1) □ ・打合せ資料に、業務の各段階で必要とされる内容が盛り込まれ	
			打ち合わせ 資料の内容 〔減点評価〕	20	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 "=1⇒「0.8」、"=2⇒「0.6」 チェック数	20	□ ・打合せ資料に大きなミスがあった。	
			十分な技術力	20	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$	4	・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理されていた。 ・特記仕様書に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な	技さ
					チェック数 0		・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分文	计
			小計	100	(1)	36	#いくさる形力を行りくv 7に。 (年1)	
			\1. BI	.00		0		

注1) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

0

チェック数

注1) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

	評価項目		評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
	T "/	説明力	理解しやすい 説明 プレゼンテーション (資料)	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」	6	 □ ・日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 □ ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 □ ・資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 □ ・資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。
			理解しやすい 説明 プレゼンテーション (対応)	30	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow $\lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rfloor$	6	□ ・打合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。 □ ・質問に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回答期限が提示された。 □ ・一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。
	ㅋ 二				チェック数 0		・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に 理解できた。
プロセス	ケーションカ	協調性 プレゼンテーション力 〔加点評価〕	説明を補う努力	20	評価細目 f_{xy} 为数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$	4	 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 □ ・説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされていた。 □ ・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さが工夫されていた。
評					チェック数 ()		□ ・説明を補足するための的確な資料が周到に用意されていた。
価			円滑な業務遂行への努力	20	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow f 0.6] $n=1\Rightarrow$ f 0.8]、 $n=2\Rightarrow$ f 1.0]	12	□ ・密に作業 (業務) の進捗状況等が発注者に報告されていた。 ・作業 (業務) 遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告 がなされた。
					チェック数 0		
			.t. #1.	100		28	
			小 計	100	1	20	
	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感積極性	100	評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	20	□・現場代理人、主任技術者として、責任逃れの言動は無かった。 □・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 □・作業(業務)遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。
					チェック数 0		・作業 (業務) 遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。
			小 計	100	①	20	
			目的の達成度	40	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ ⇒ $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ ⇒ $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ ⇒ $\lceil 1.0 \rfloor$	8	□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。
					チェック数 0		・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業
結果評価	F.	成果品の品質	的確な 取りまとめ	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0]	6	一 務に対し必要な業務放来が得られた。 注1) □ 設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を漏れなく 取りまとめている。 □ ・簡潔で理解しやすい文章表現になっている。 □ ・記載方法や成果の取りまとめに創意工夫が見られる。 □ ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連付け、重
			ミスの有無	30	評価細目 $f_{xy}/$ 数= $0 \Rightarrow \lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rceil$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rceil$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rceil$	6	□ 要な点が理解しやすく取りまとめられている。
					チェック数 0		・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小 計		1	20	

注1) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(5) 用地調査等業務 ②〔主任監督員用採点表〕

業務名: (1/1)

	評価項目		評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
J	専門技術力	業務執行技術力	業務執行技術力	100	右記評価細目の該当項目を総合的に判断して、「0.2」「0.6」「0.8」「1.0」を付与する。	0. 6	・当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 ・当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 ・当該業務に対する検討項目及び検討手法について、評価できるものであった。 ・当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものであった。 ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。 ・・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。
ロセ			1 21	100	7-77-)
ス			小 計	100	3	60	
評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性 倫理観	100	右記評価細目の該当項目を総合的に判断して、「0.2」「0.4」「0.6」「0.8」「1.0」を付与する。	0. 6	□・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対して評価できるものであった。 □・当該業務遂行にあたって、地元対応や関係機関との連絡調整等が的確に行われた。 □・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として体制の拡充を図る等により、作業(業務)を完成させた。
					チェック数 ()		・その他(理由:)
			小 計	100	3	60	

(5) 用地調査等業務

③ 〔検査員用採点表〕

業務名:

(1/1)

得 点 率 評価項目 評価の視点 配点 優 標準 得点 評価細目 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 □ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $y=1\Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $y=2\Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $y=3\Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $y=4\Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合してい ロた。 檢討項目 50 10 ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目 検討手法 □ 間の整合も図られていた。 □ ・採用された検討手法は、他の業務実施事例、補償事例等を収集 し、参考にするなど難易度の高いものであった。 <mark>注)</mark> 0 チェック数 ・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解 口されていた。 業務執行技術力 術 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な □ 技術力を有していた。(測量においては、作業に応じた機器等が配置されていたことも併せて評価する) 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 $n = 1 \Rightarrow [0.4]$, $n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8]$, $n = 4 \Rightarrow [1.0]$ カ 50 10 十分な技術力 П ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について セ ス ・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対 評 □ 応できる能力<u>を</u>有していた チェック数 0 価 小 計 100 (5) 20 質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該作業務固有の議論 □ が明確に区別されていた。 説明力 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ **連解できた。** 説明力 協調性 100 20 4 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解 度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 協調性 プレヤンテーションナフ $\ \square$ ・説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 プレセンテーション力 チェック数 0 Ξ カ 小 計 100 (5) 20 □ ・設計図書に指示された項目が、漏れなく実施された。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 $n = 1 \Rightarrow [0.4]$, $n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8]$, $n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ ・業務遂行段階での指示事項が漏れなく実施されていた。 40 8 目的の達成度 □ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 ・高度なレベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に 0 チェック数 対し必要な業務成果が得られた ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れな 口く取りまとめている。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$, $n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ □ ・簡潔で理解しやすい文章表現になっている。 的確な 結 30 6 とりまとめ 果 成果品の品質 □ ・記載方法や成果の取りまとめに創意工夫が見られる。 評 □ ・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。 価 チェック数 0 ・誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正 □ できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 $n = 1 \Rightarrow [0.4], \quad n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], \quad n = 4 \Rightarrow [1.0]$ □ ・修正が必要なミスは無かった。 ミスの有無 30 6 ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。 ・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かっ チェック数 0 П 小 計 100 (5) 20

注) 考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。